

小学校 発問検討ワークシート

①教材名	手品師	②内容項目	A 正直、誠実
③教材分析 (中心発問で考えさせるために押さえておきたいこと)	手品師  男の子  友人の誘い  迷う  決断して、きっぱり伝える 人によって決断のポイントは異なるが、手品師は男の子との約束を選ぶ。 手品師の信念 ・ 男の子との約束をやぶる人間にはなりたくない。 ・ 目の前にいる人を楽しませようとやってきた仕事だから。 男の子の前ですばらしい手品を演じる ・ 約束したから行かなくては。 ・ 男の子は楽しみに待っている。 ・ 自分を待っている。 ・ 今までの夢がかなうチャンスがきた。		
④ねらい (この教材で児童に考えさせたいこと)	・ 約束を守ることが誠実なのか? 「僕だったら…」のように方法論の授業になってしまったり、ねらいに到達しないことがあった。 まずはねらいを明確に→達成できるように中心発問→基本発問から振り返りなど自分の信念、自分に対する誠実さを取り上げたい。 ねらい：正直な人でありたいという思いを大切にすることが、前向きな明るい生活を送ることにつながることを自覚し、自分の生き方に正直に向き合い、明るい心で生活しようとする心情を育む。 ・ 正直な人でありたい →こちらに重点を置きたい。 →低学年：正直であることの気持ちよさ。正直だと明るく快適に生活できる。中学年以降は、快適さの中身に焦点が当たるように。 →中学年：自分の正直な心を大事にする、うそつきの心に負けないから快適。 →高学年：自分という人間の値打ちを大切にする。 ・ 前向きに明るい心で生活する →上記のねらいだと、こちらに焦点が当たっているように見える?		

	修正後のねらい：正直にごまかさないで生きるとは、相手のためだけでなく、自分自身の生き方や値打ちに関わるものでもあることを自覚し、自分の生き方に誠実に生活しようとする態度を育む。
⑤中心発問 (ねらいを達成するための発問)	手品師が約束を守ろうと決断した場面を問いたい。 「明るく生活する」なら最後の場面が中心になるが。 中心発問：手品師は、<u>どんな思いを大事にして</u>、男の子との約束を果たそうと決断したのでしょうか。 ・男の子がかわいそうだから。 →よく出てくる意見。ねらいにつながる意見ではない。あまり出てこない意見からねらいにつながる意見を見つけたい。 →相手に対する考え方。Bの視点の考え。Aの視点の授業なので、自分にとってどうなのかを考えさせたい。 ・最初にした約束だから。 ・自分に正直にしたほうがすっきりするから。 →「すっきりするから」「自分に正直」は中学年の意見。 ・自分の信念を大事にしたほうが ・自分という人間を大事にしていきたい。 ・うそつきの人間にはなりたくない。 →生き方に結びつくような意見が出るようにしたい。生き方→高学年の意見。 →なかなか「自分」に考えがいきにくい。 →板書で意見をまとめていく中で、男の子に対する意見がたくさん予想される中で、自分の生き方に迫るように「ほかにないかな？」と聞こうと思うが →「ほかにないかな？」だと正解探しになってしまうので、「どんどん出してごらん」というか、「男の子のためなんだね？」と強調すると、「いや、男の子のためだけじゃないよ」は出てくると思う→「自分のため」が出てくるように時間をかける。 →「自分」ということばが出てきたら、さりげなくそれに近付く。 ・大劇場に行っても楽しくないから。モヤモヤするから。 →こういう意見もよく出てくる。自分の生き方につながるように問い返したい。 →そのモヤモヤって何だろう？ ・男の子の顔が浮かぶから ・嘘つきでいたくない、自分の値打ちが ・中学年：自分に正直でいたい ・高学年：自分という人間を大切にしたい

⑥導入発問、 基本発問、 補助発問 (中心発問にいたる までに押さえてお きたい発問)	中心発問で時間が十分とれるように。 導入発問：正直にすることは、どうして大事なのでしょうか。 ねらいとする道徳的価値についての問いを導入で投げかけて、問いの形でめあてとして提示すると、主体的な学習につながる。最初に少し発言させておくと、板書上で学んだことが可視化される。登場人物の心情理解に偏る授業になりにくい。→展開のどこかでこの問いに戻る必要がある。 基本発問①：男の子との約束をした手品師は、どんな気持ちで約束をしたのでしょうか。 →軽い気持ちで約束をしたこと、それでも守ろうとしたことを押さえる。 基本発問②：迷いに迷った手品師は、どのようなことを考えていたのでしょうか。 【夢の大劇場】⇔【男の子との約束】 →「夢の」？ 手品師は夢を捨てたのか？ →夢は、「大劇場で手品をすること」だけでなく、いい手品師になること。 【大劇場】⇔【男の子との約束】←事実として比較する →子どもから「夢は捨ててないぞ」という意見も出てくるかも。 中心発問で深めた後に、めあてに戻る。 補助発問：正直にすることは、どうして大事なのでしょうか。 ・自分の信念を貫くことが、自分らしさにつながるんだ。 ・正直にすることは自分の生き方を大事にすることにつながるんだ。 最後の、男の子に手品をしている場面。 子どもたちから手品師の気持ちを簡単に聞いて、さらりと終えたい。
⑦振り返りの 発問	振り返りの発問：自分の生き方を大切に、行動した経験を振り返ってみよう。 →((中心発問のあとにめあてに戻ったことで))自分の生き方を大切にしたい正直さ、を子どもたちは考えたので、それを考えさせる(書かせる)。 →子どもたちに発表させずに、一人ひとりにまとめさせる。 →子どもたちから出るだろうか？ →「自分の生き方を大切にしたい正直さ」を子どもたちも意識したことはこれまでにないと思うが、改めて考えさせたい。すぐには出てこないの、宿題としてじっくり考えさせてもよい。発表させずにまとめさせるのはよい。

	教師の説話：教師の失敗談を話そうと思うが、振り返りの様子を見て、なかなか子どもたちの手が進まない場合は、教師が見つけた子どもたちの普段の生活の中での誠実さを話してあげたい。 →先生は失敗談、子どもたちはできたことを話すのはよいこと。
⑧まとめ	全体を振り返って →発達の段階に応じた大事にしないといけないポイントが入り交じっていたが、それが整理された気がする。 ・低：気持ちよさ ・中：正直な心と嘘つきな心 ・高：自分の生き方として →なかなか各学年でこうした意見は出てきにくい。 →経験がないとなかなか出てこないがチャンスはある。学校教育全体での道德教育。いいことをした子をどう褒めるか。どの学年でも「えらかったね」でほめていないか。 低：「気持ちがいいね」、 中：「弱い心に負けなかったね」、 高：「自分を大事にしたんだね」、 中学校「あなたのプライドだね」など、発達の段階に合わせて褒め方を変える。教育活動全体の道德教育とのつながりが大切。